

診療における放射線の影響について

公立南砺中央病院 放射線室

【当院の取り組み】

当院では診断に必要な被ばく線量を可能な限り低減することに努めています。

患者さんが安全に検査を受けられるよう、放射線量の確認、見直しを行い被ばくの最適化に取り組んでいます。

ご不明点は担当の放射線技師にご相談下さい。

【CT検査における放射線被ばく】

- CT検査では放射線被ばくを伴います。CT検査によって得られる利益（病気の発見や診断）の方が十分に大きい場合に行ないます。
- 診断を目的とした通常のCTでは、1回の被ばく線量は撮影部位・検査内容により異なりますが、2~20mSv（ミリシーベルト）です。



2~20mSv 【CT検査】

被ばく線量

100mSv

50mSv

0mSv

※通常の診療（検査）では100mSvを超えることはありません。

【放射線被ばく線量とその影響】

- 100mSv（ミリシーベルト）未満の被ばくでは、脱毛や皮膚障害などの明らかな障害を認められません。
- 100mSv（ミリシーベルト）未満の被ばくでは、明らかな発がんリスクの上昇は認められません。

2.4mSv
【1年間で自然から受ける放射線】

0.1mSv 程度【レントゲン写真】

0.02~0.2mSv【骨密度】

